

図 6 - 7(E) その他：大島の分類

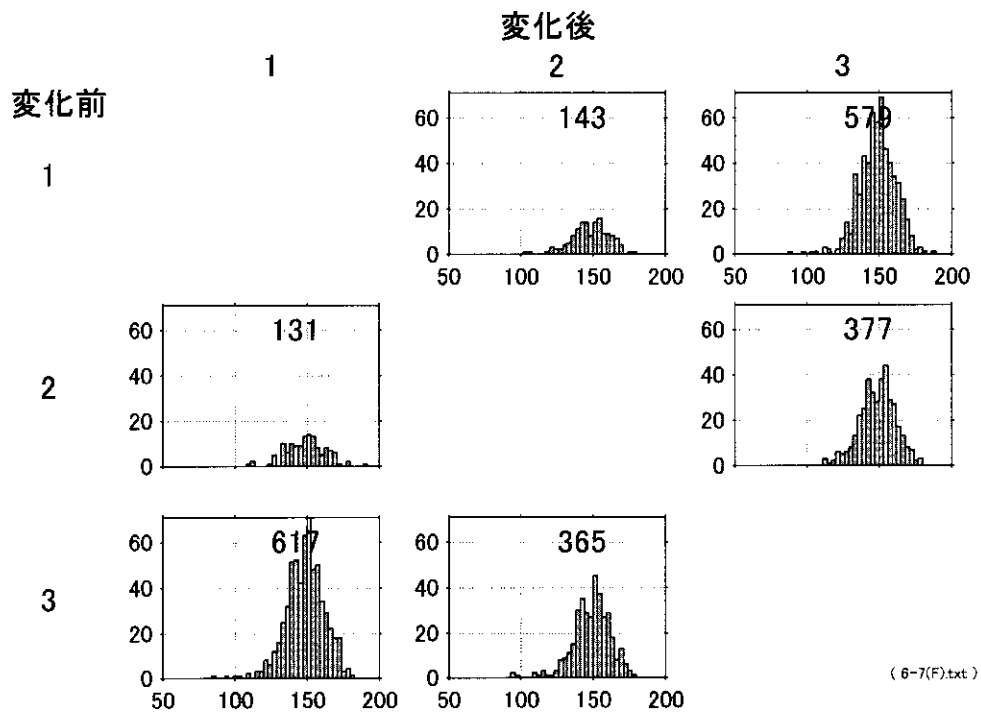


図 6 - 7(F) その他：身長 (cm)

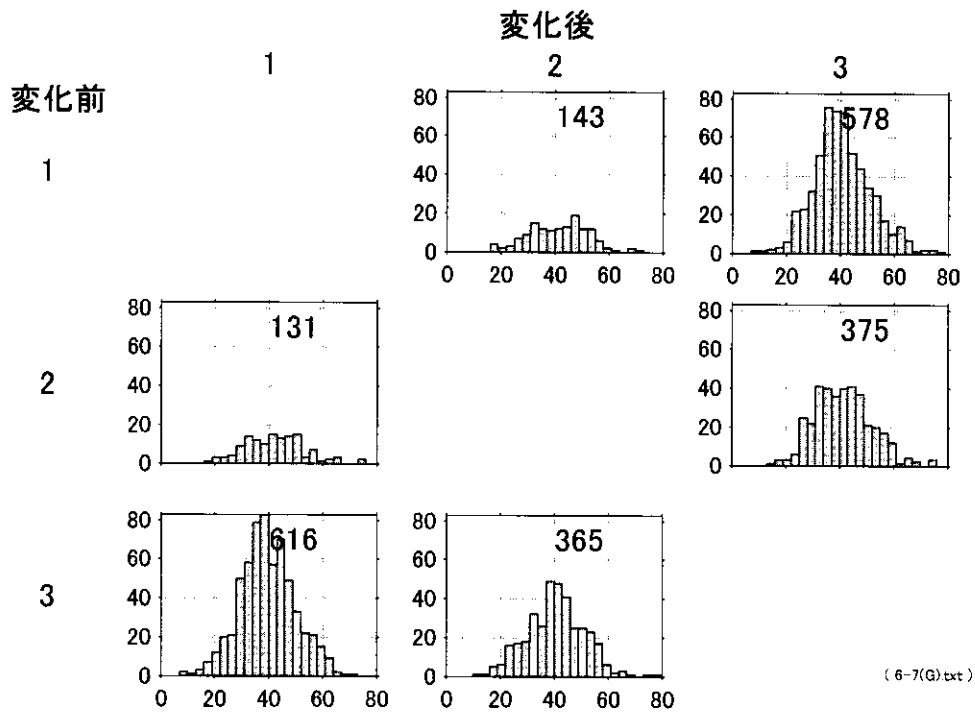


図 6 - 7(G) その他：体重 (kg)

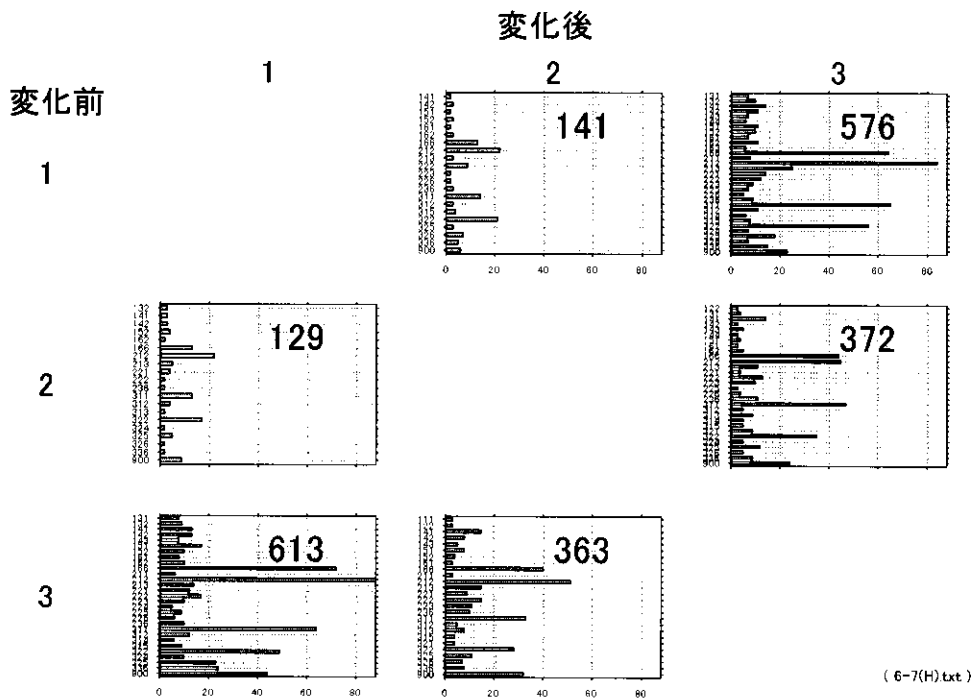


図 6 - 7(H) その他：主要病因

7. 問題行動（対人関連行動）

7. 1. 攻撃的・反抗的態度

■ 改訂版 ■

1	日常的にある
2	時々ある
3	なし

<図 7-1 (A)～(H)>

全体：対象症例数 8583 名の中で不変群 6158 名を除いた，2425 名（28.3%）に変化がみられた。改善は 1639 回，退行は 1824 回発生し，改善は退行に比べて少なかった（改善/退行：-10.1%）。また，改善と退行の和（3463 回）を変化を起こした症例数で除すると，変化が平均で 1.43 回発生したということになる。改善が最も多くみられた水準は，2 群→3 群（1304 回，改善回数の 79.6%）であった。一方，退行に関しては，群 3→2 群（1531 回，退行回数の 83.9%）の変化が最も多くみられた。

性別：男性では何らかの変化が 1888 回みられ，改善が 891 回（47.2%），増悪 997 回（52.8%）であった。女性では何らかの変化が 1575 回みられ，改善が 748 回（47.5%），増悪 827 回（52.5%）であった。男女間で顕著な差は認めていない。

改善群と増悪群について大島の分類との関連とをみると，両者とも大島の分類 5・10・17 で相対的にその数が多い。身長・体重については改善群と増悪群の両者間で傾向の差を認めていない。

	变化後 1	2	3
变化前 1	51 名	272 回	63 回
2	243 回	836 名	1304 回
3	50 回	1531 回	5271 名

对象症例数 = 8583 名
 不变症例数 = 6158 名
 变化症例数 = 2425 名

改善变化回数 = 1639 回
 增悪变化回数 = 1824 回

(7-1(A).txt)

図 7-1(A) 攻撃的・反抗的態度：全体

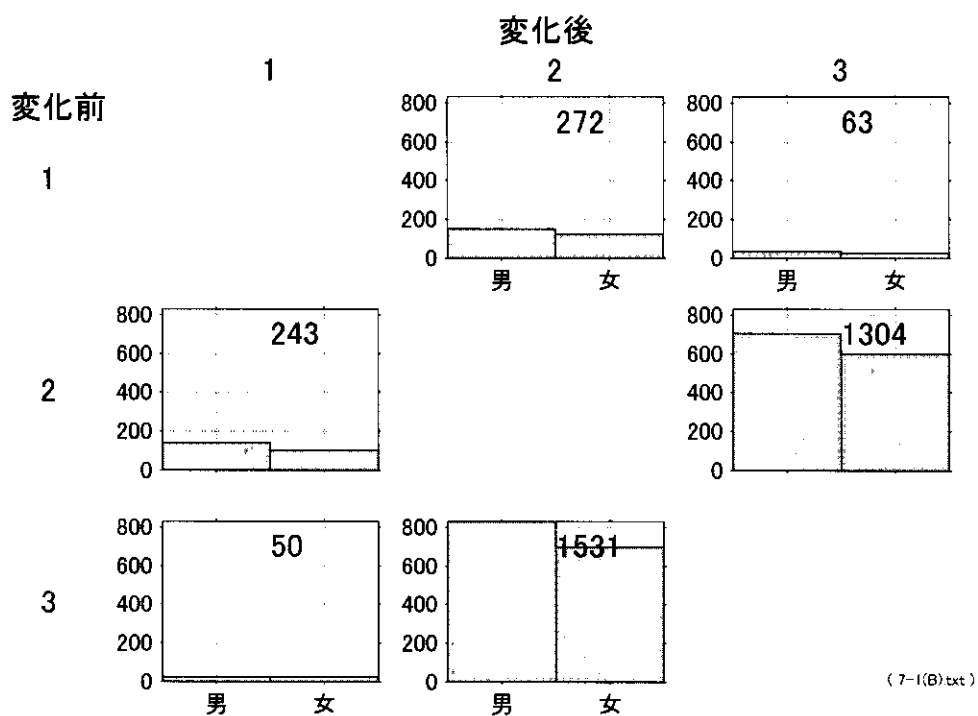


図 7-1(B) 攻撃的・反抗的態度：性別

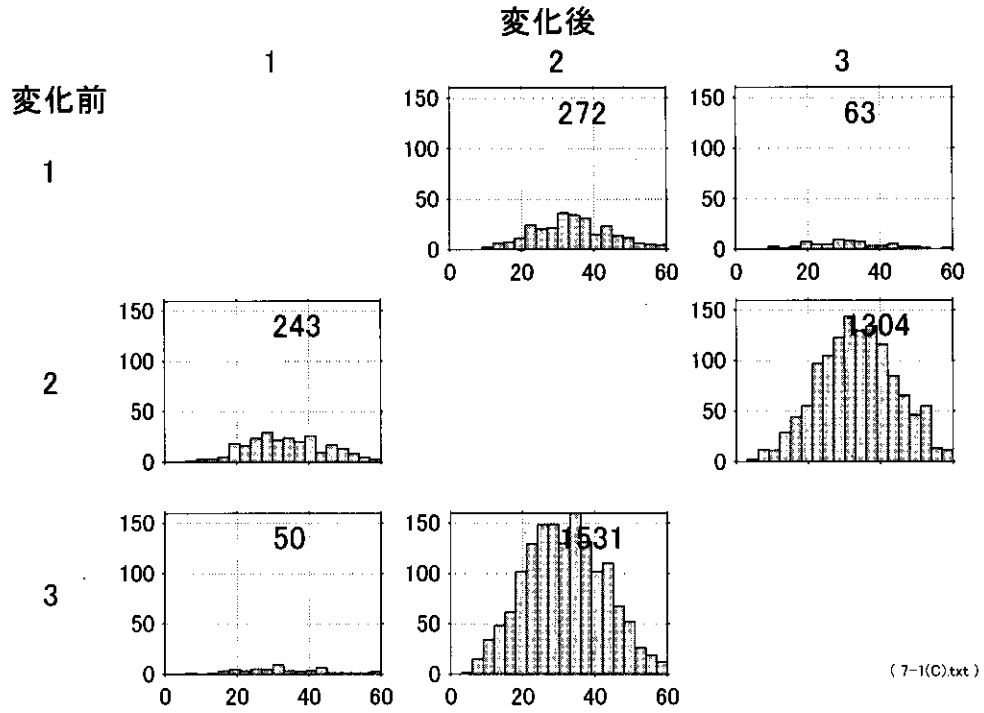


図 7-1(C) 攻撃的・反抗的態度：年齢（歳）

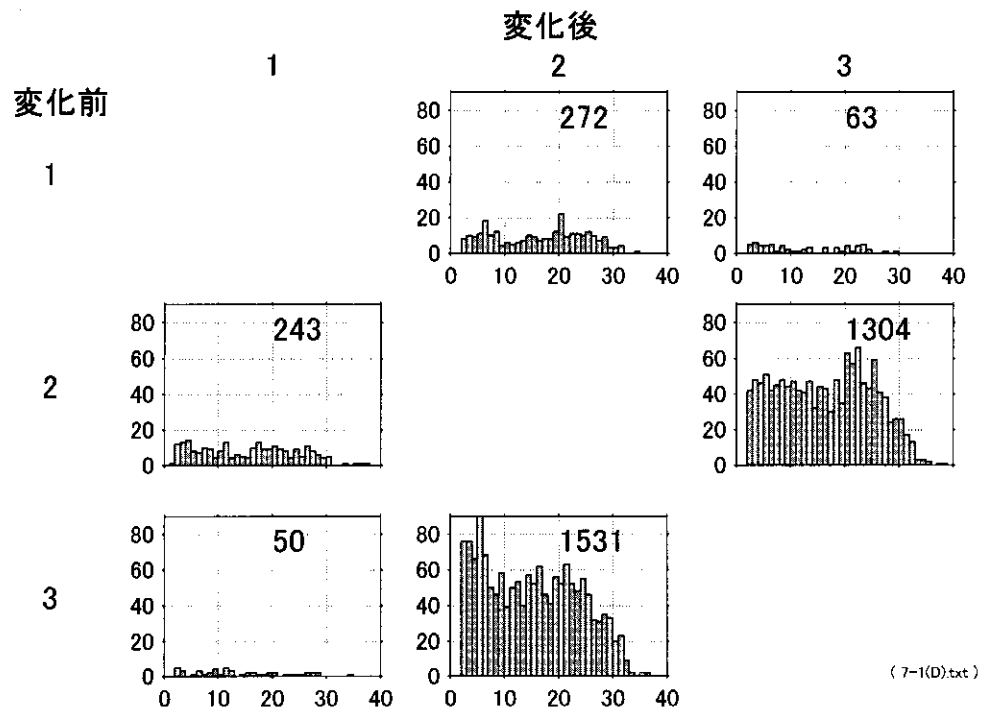


図 7-1(D) 攻撃的・反抗的態度：変化発生までの入所期間（年）

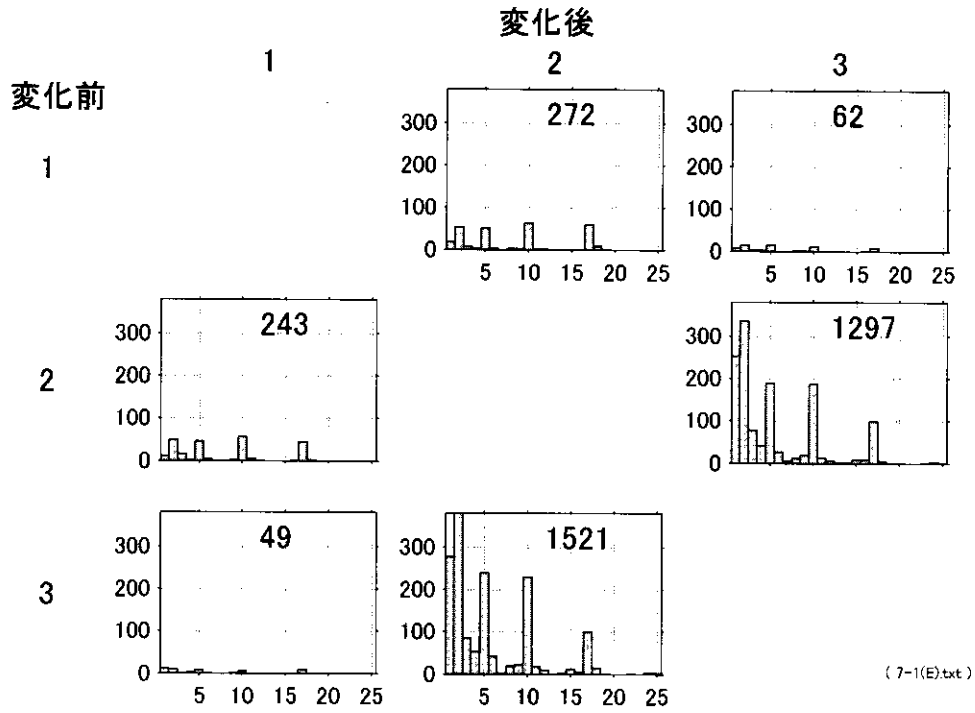


図7-1(E) 攻撃的・反抗的態度：大島の分類

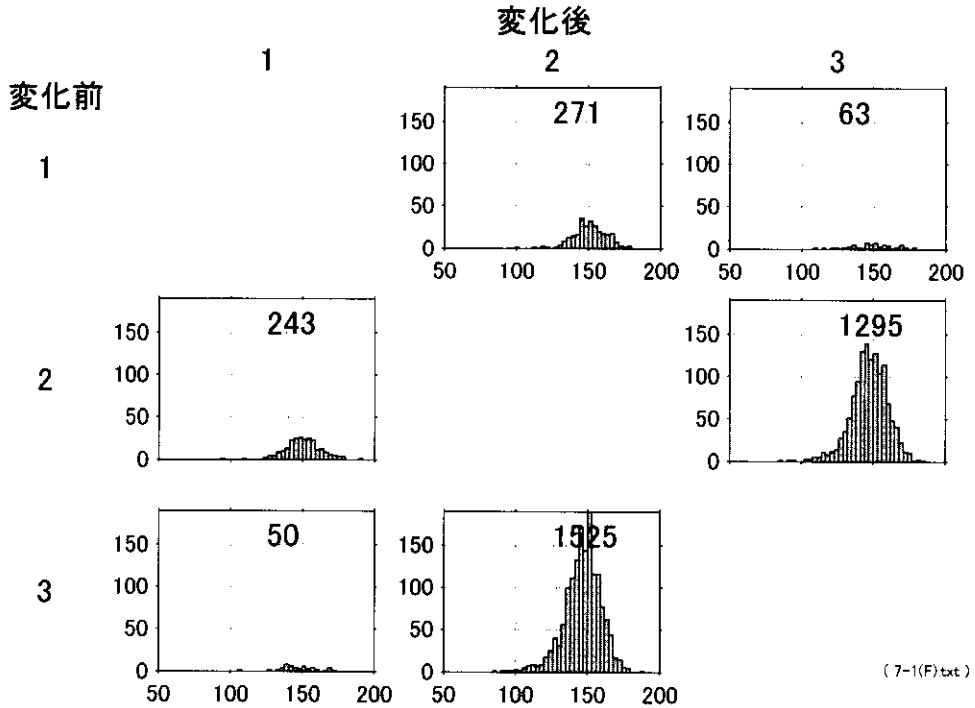


図7-1(F) 攻撃的・反抗的態度：身長 (cm)

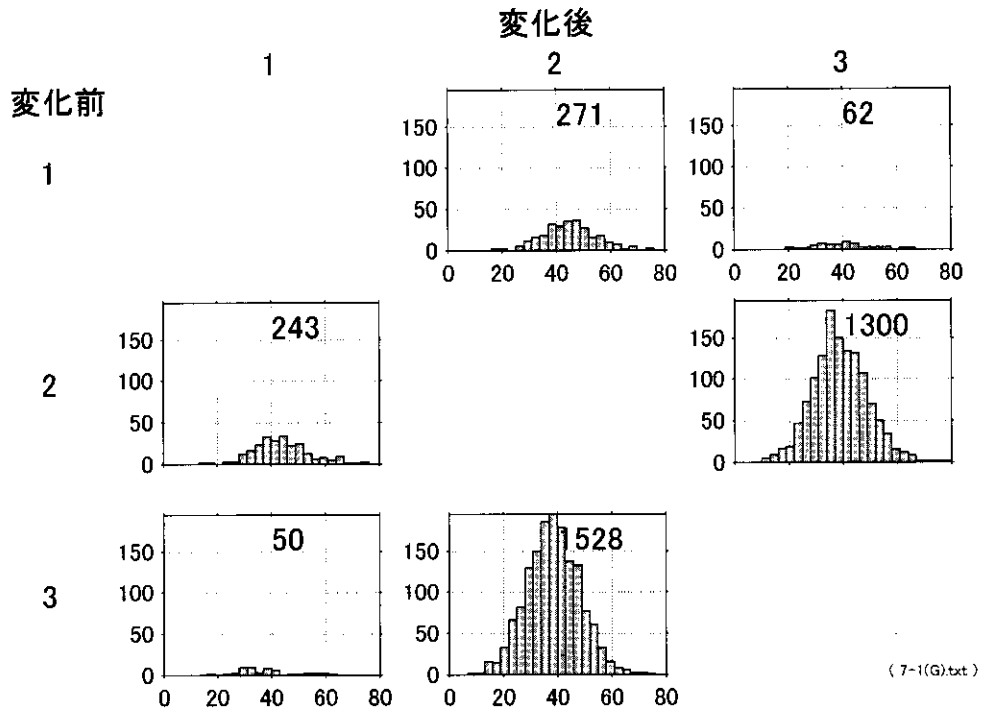


図 7-1(G) 攻撃的・反抗的態度：体重 (kg)

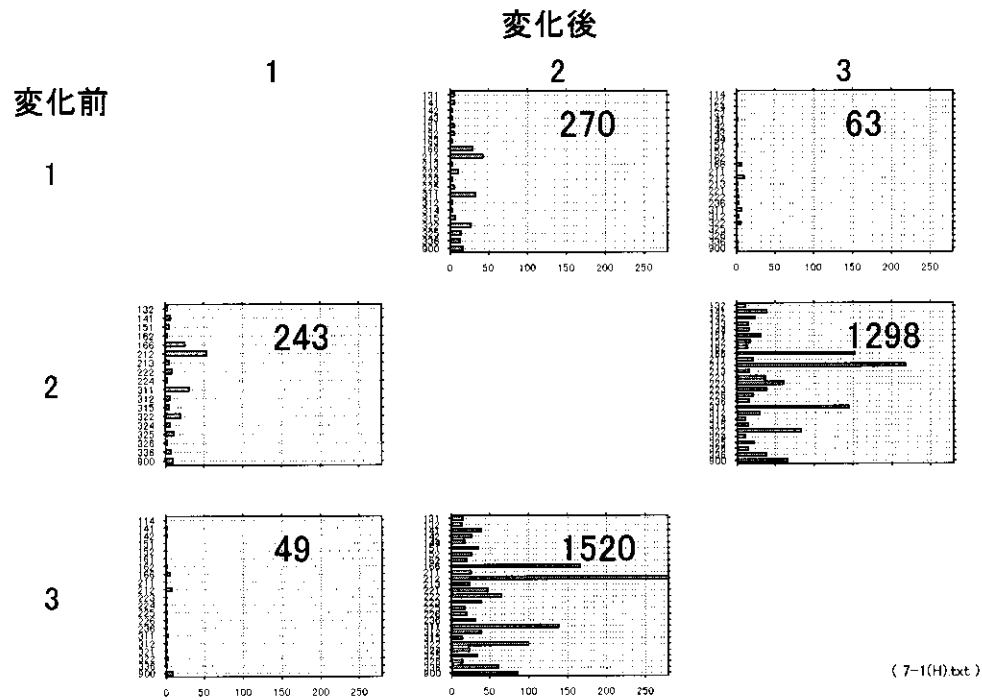


図 7-1(H) 攻撃的・反抗的態度：主要病因

7. 2. 排他・拒絶的傾向

■ 改訂版 ■

1	日常的にある
2	時々ある
3	なし

<図 7-2 (A)～(H)>

全体：対象症例数 8577 名の中で不変群 5843 名を除いた，2734 名 (31.9%) に変化がみられた。改善は 1780 回，退行は 2061 回発生し，改善は退行に比べて少なかった (改善/退行：-13.6%)。また，改善と退行の和 (3841 回) を変化を起こした症例数で除すると，変化が平均で 1.40 回発生したということになる。改善が最も多くみられた水準は，2 群→3 群 (1392 回，改善回数の 78.2%) であった。一方，退行に関しては，3 群→2 群 (1753 回，退行回数の 85.1%) の変化が最も多くみられた。

性別：男性では何らかの変化が 2016 回みられ，改善が 921 回 (45.7%)，増悪 1095 回 (54.3%) であった。女性では何らかの変化が 1825 回みられ，改善が 859 回 (47.1%)，増悪 966 回 (52.9%) であった。男女間で顕著な差は認めない。

改善群と増悪群について大島の分類との関連を見ると，両者とも分類 1・2・5・10・17 にその数が多い傾向を共通して見せていた。なお身長・体重との関連については改善群，増悪群との間で差を認めない。

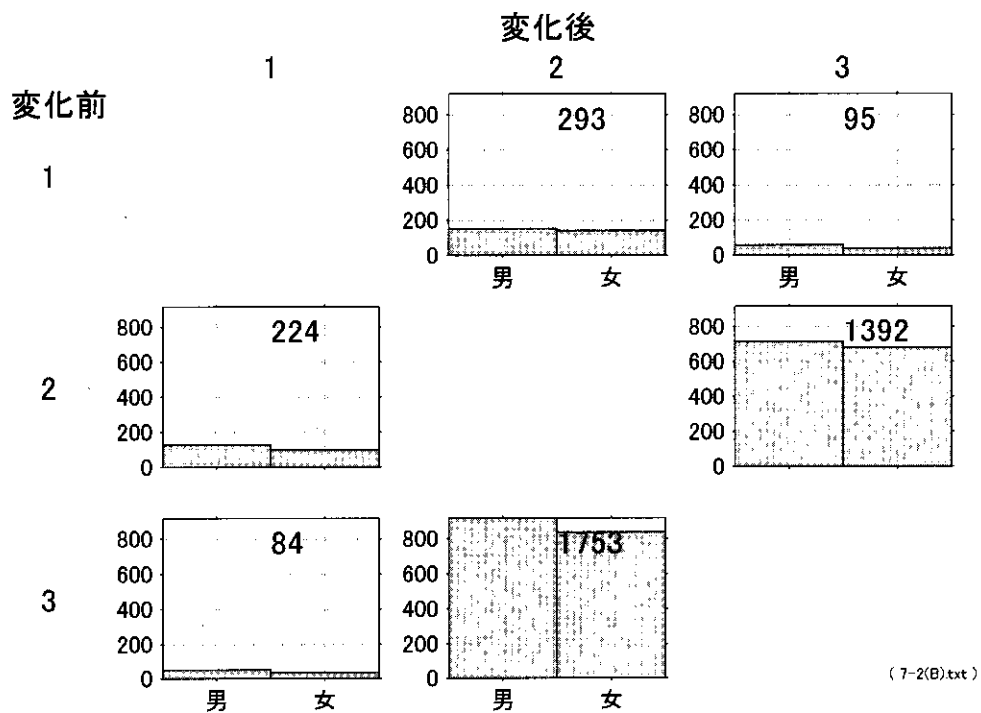
	变化後 1	2	3
变化前 1	68 名	293 回	95 回
2	224 回	860 名	1392 回
3	84 回	1753 回	4915 名

対象症例数 = 8577 名
 不変症例数 = 5843 名
 変化症例数 = 2734 名

改善変化回数 = 1780 回
 増悪変化回数 = 2061 回

(7-2(A).txt)

図 7-2(A) 排他・拒絶の傾向：全体



(7-2(B).txt)

図 7-2(B) 排他・拒絶の傾向：性別

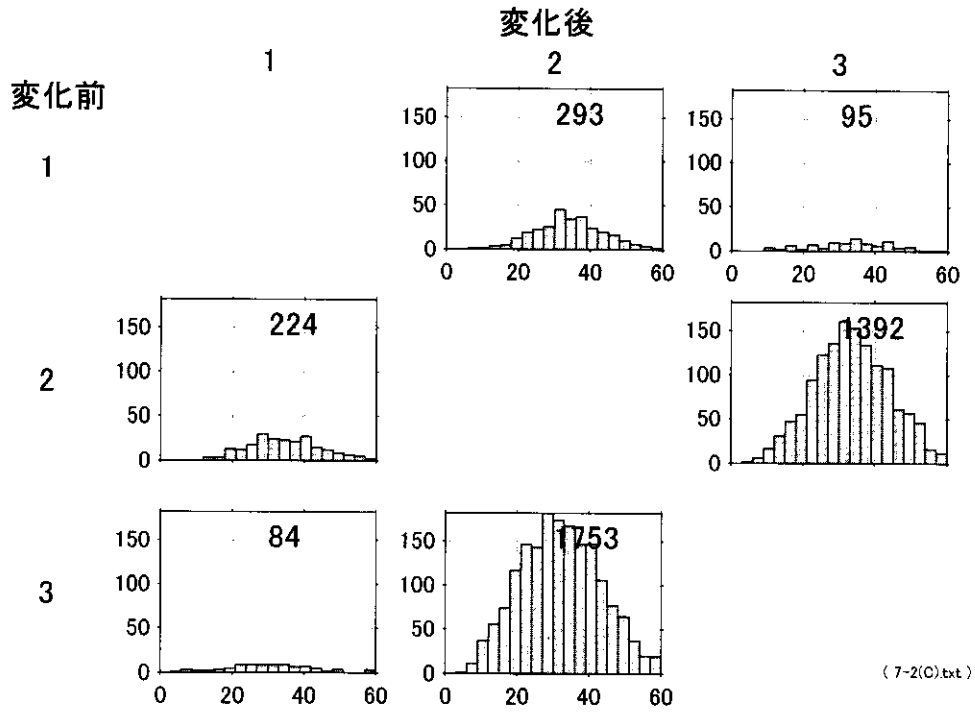


図 7 - 2(C) 排他・拒絶的傾向：年齢（歳）

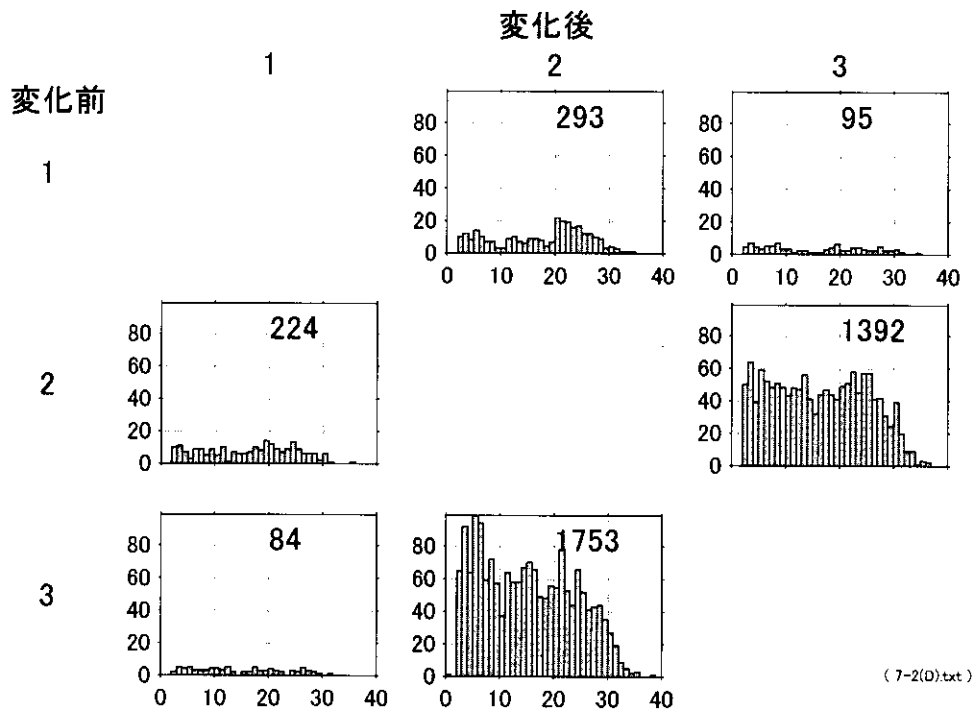


図 7 - 2(D) 排他・拒絶的傾向：変化発生までの入所期間（年）

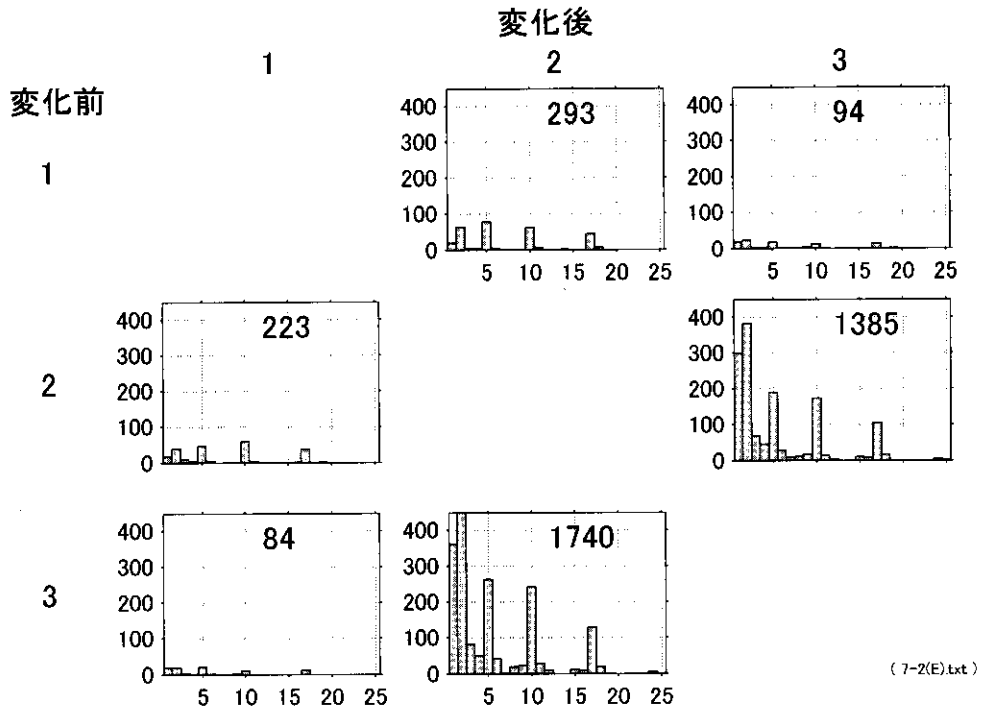


図 7 - 2(E) 排他・拒絶的傾向：大島の分類

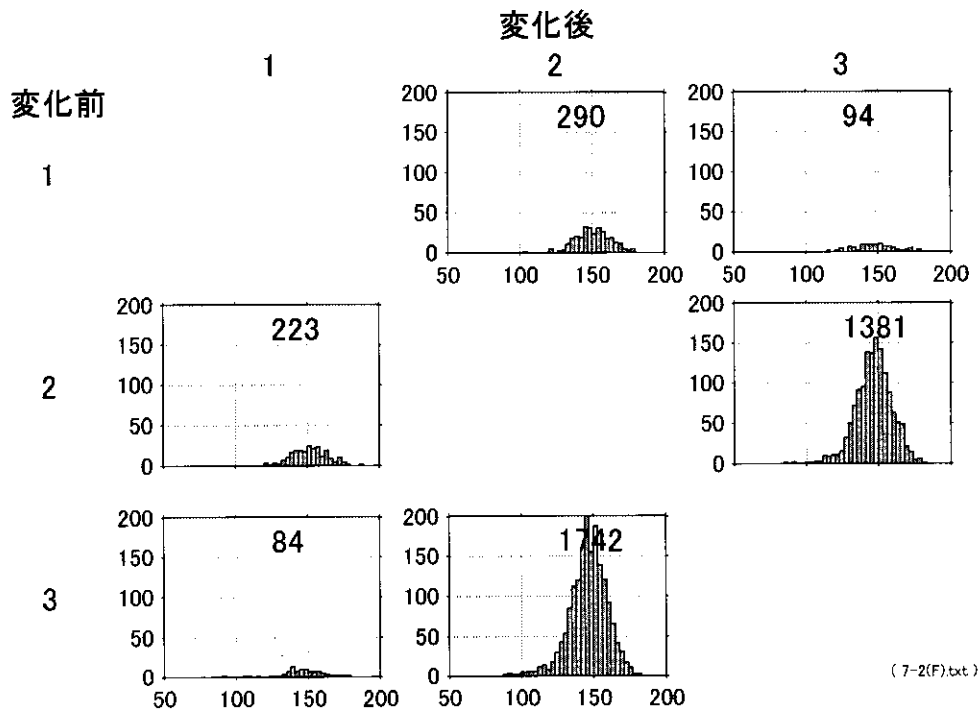


図 7 - 2(F) 排他・拒絶的傾向：身長 (cm)

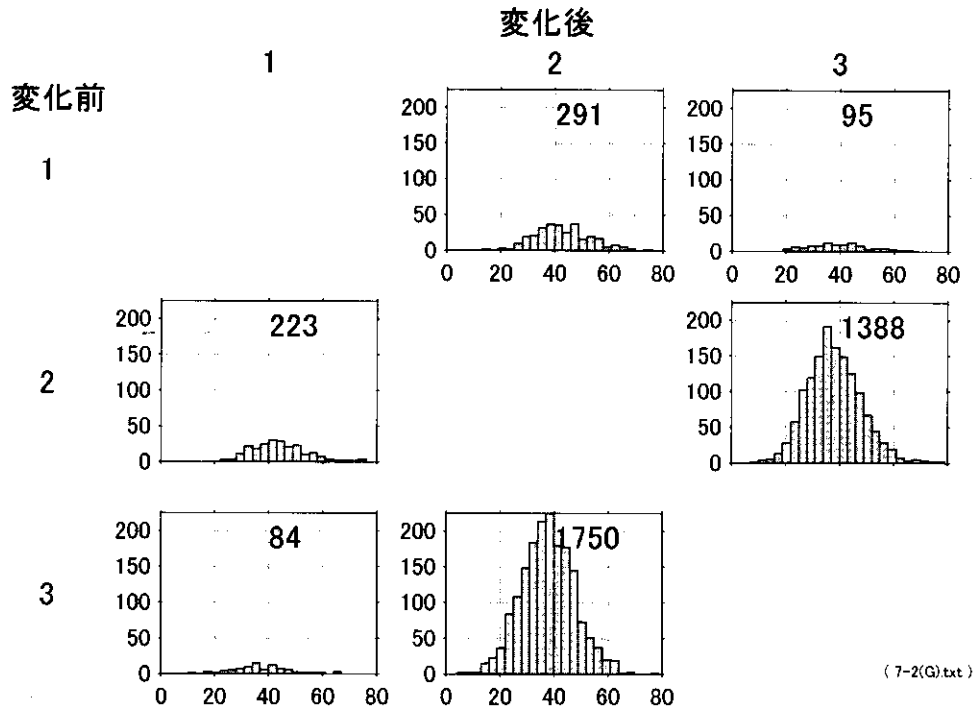


図 7 - 2(G) 排他・拒絶の傾向：体重 (kg)

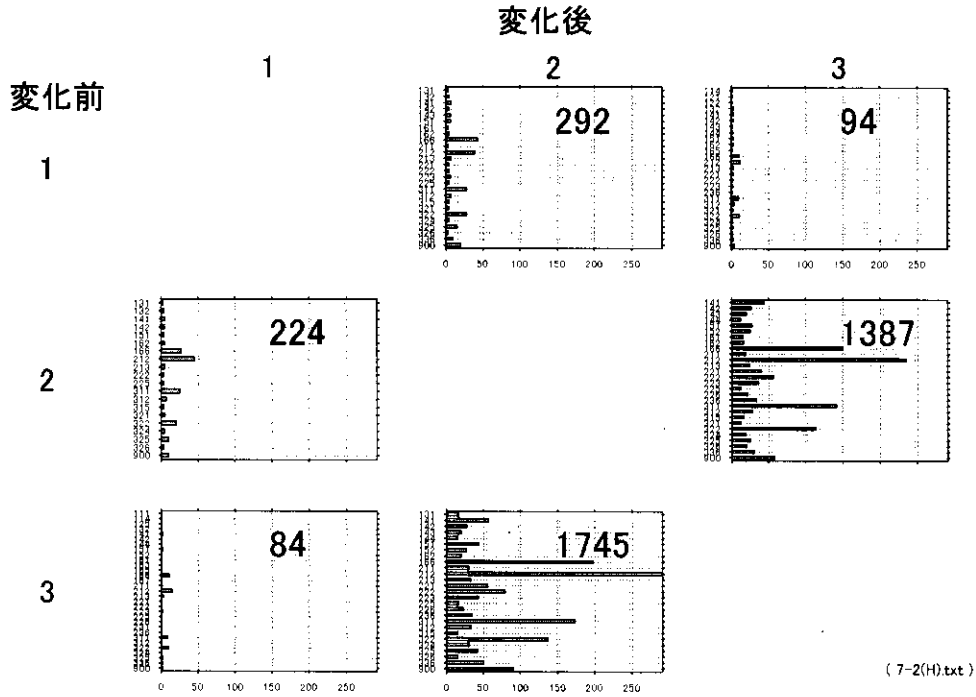


図 7 - 2(H) 排他・拒絶の傾向：主要病因

7. 3. 奇声・叫声

■ 改訂版 ■

1	日常的にある
2	時々ある
3	なし

<図 7-3 (A)～(H)>

全体：対象症例数 8575 名の中で不変群 5383 名を除いた，3192 名（37.2%）に変化がみられた。改善は 2411 回，退行は 2349 回発生し，改善および退行変化は概ね同頻度であった（改善/退行：2.6%）。また，改善と退行の和（4760 回）を変化を起こした症例数で除すると，変化が平均で 1.49 回発生したということになる。改善が最も多くみられた水準は，2 群→3 群（1614 回，改善回数の 66.9%）であった。一方，退行に関しては，3 群→2 群（1673 回，退行回数の 71.2%）の変化が最も多くみられた。

性別：男性では何らかの変化が 2454 回みられ，改善が 1251 回（51.0%），増悪 1203 回（49.0%）であった。女性では何らかの変化が 2306 回みられ，改善が 1160 回（50.3%），増悪 1146 回（49.7%）であった。男女間で顕著な差は認めていない。

改善群と増悪群について大島の分類との関連をみると，大島の分類 1・2・5・17 にその数が多い点で共通している。身長・体重との関係については両者に顕著な傾向の差を認めていない。

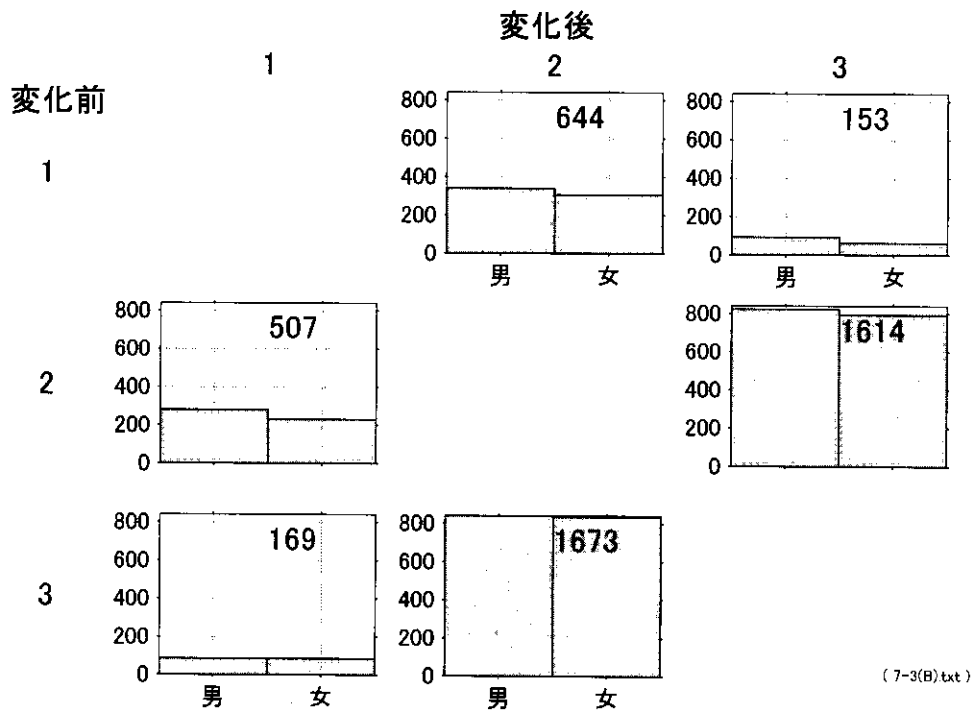
	变化後 1	2	3
变化前 1	185 名	644 回	153 回
2	507 回	906 名	1614 回
3	169 回	1673 回	4292 名

対象症例数 = 8575 名
 不変症例数 = 5383 名
 变化症例数 = 3192 名

改善变化回数 = 2411 回
 増悪变化回数 = 2349 回

(7-3(A).txt)

図 7-3(A) 奇声・叫声：全体



(7-3(B).txt)

図 7-3(B) 奇声・叫声：性別

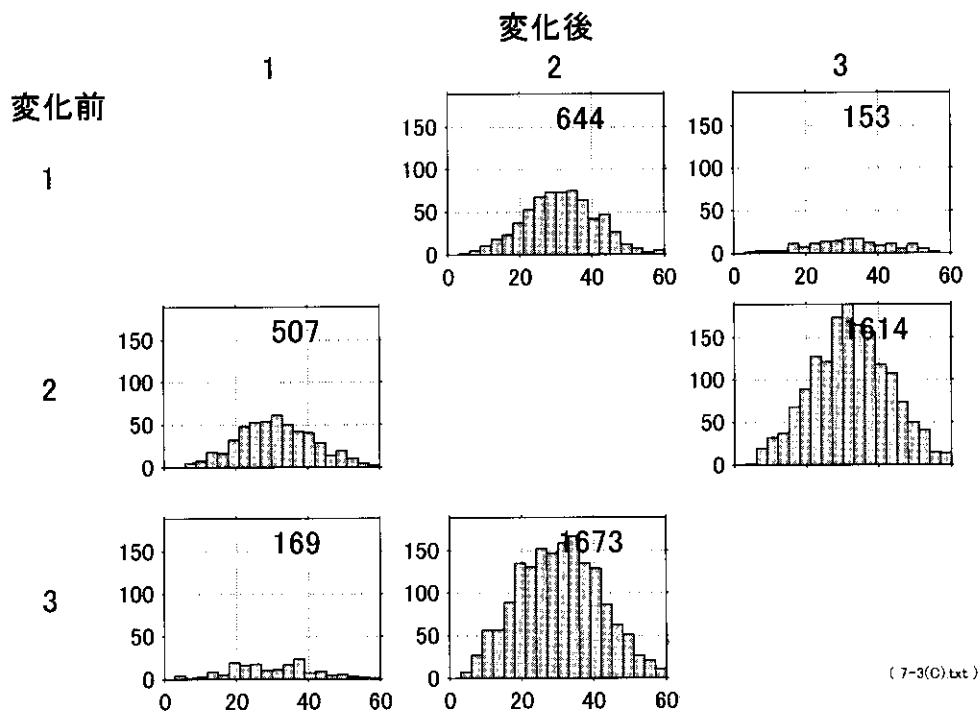


図 7-3(C) 奇声・叫声：年齢（歳）

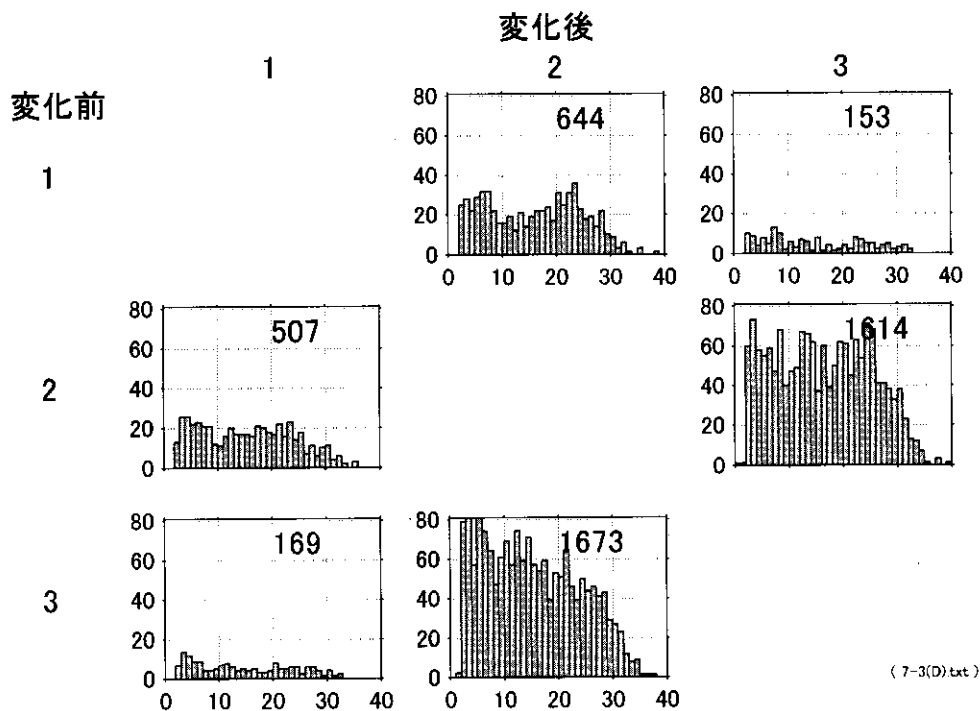


図 7-3(D) 奇声・叫声：変化発生までの入所期間（年）

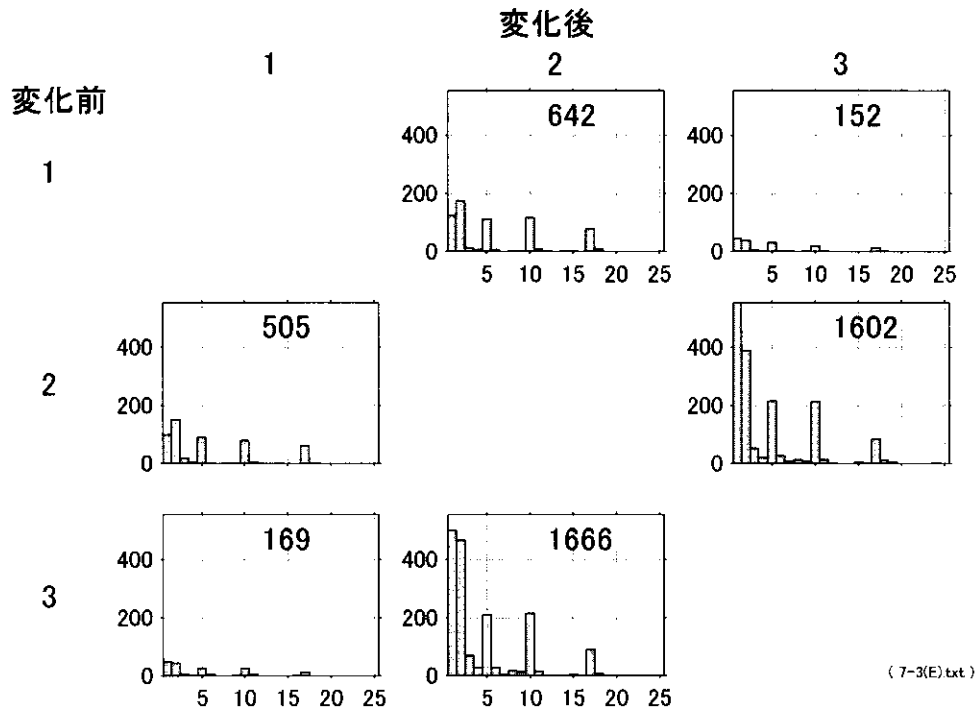


図 7-3(E) 奇声・叫声：大島の分類

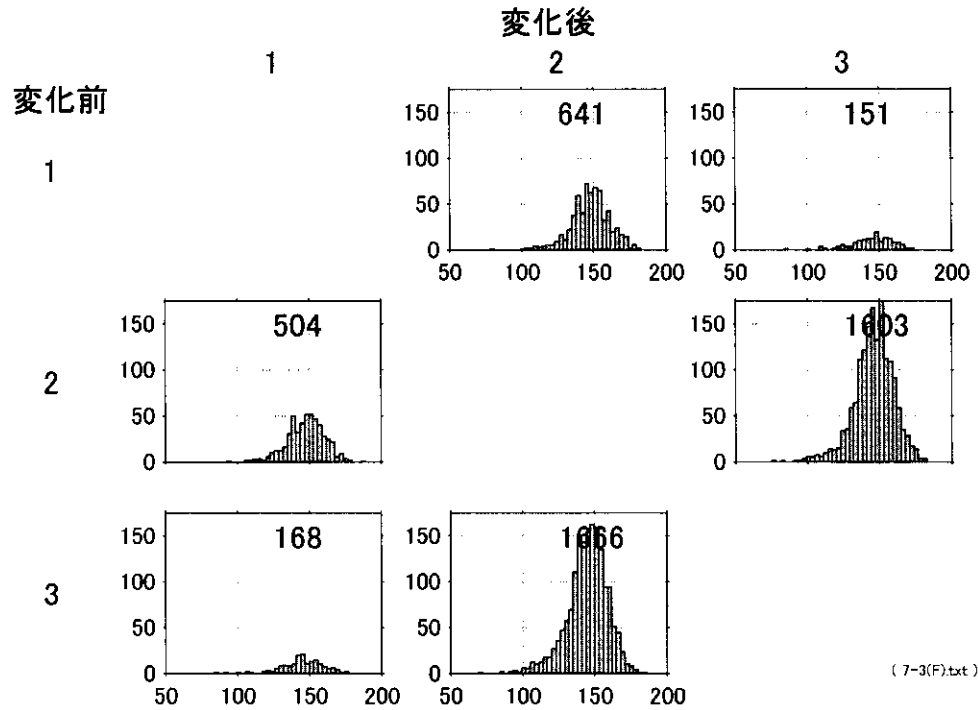
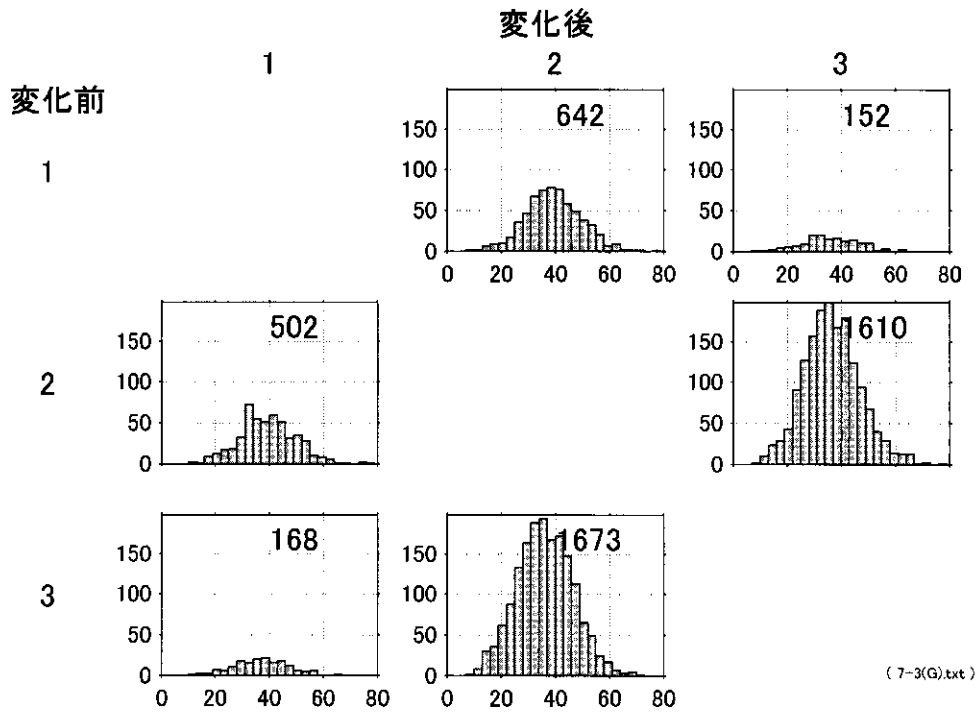
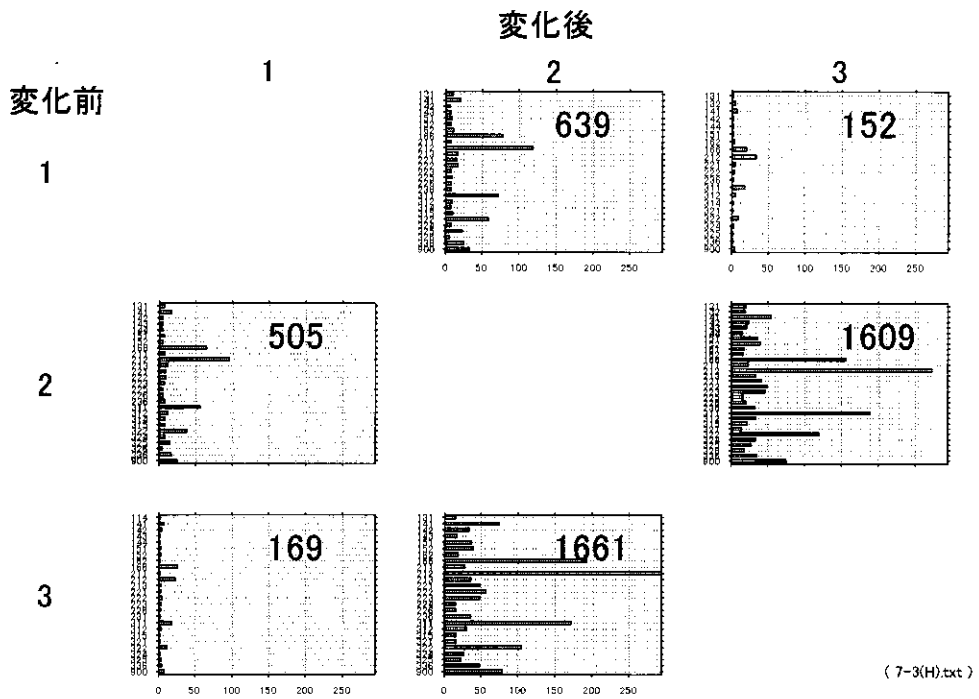


図 7-3(F) 奇声・叫声：身長 (cm)



(7-3(G).txt)

図 7-3(G) 奇声・叫声：体重 (kg)



(7-3(H).txt)

図 7-3(H) 奇声・叫声：主要病因

7. 4. ひどいいたずら

■ 改訂版 ■

1	日常的にある
2	時々ある
3	なし

<図 7-4 (A)～(H)>

全体：対象症例数 8581 名の中で不変群 7356 名を除いた，1225 名（14.3%）に変化がみられた。改善は 953 回，退行は 870 回発生し，改善は退行に比べて多かった（9.5%）。また，改善と退行の和（1823 回）を変化を起こした症例数で除すると，変化が平均で 1.49 回発生したということになる。改善が最も多くみられた水準は，2 群→3 群（731 回，改善回数の 76.7%）であった。一方，退行に関しては，3 群→2 群（713 回，退行回数の 82.0%）の変化が最も多くみられた。

性別：男性では何らかの変化が 1077 回みられ，改善が 568 回（52.7%），増悪 509 回（47.3%）であった。女性では何らかの変化が 746 回みられ，改善が 383 回（51.6%），増悪 361 回（48.4%）であった。男女間で顕著な差は認めていない。

改善群と増悪群について大島の分類との関連を見ると，大島の分類 2・5・10・17 に多い傾向を示している。身長・体重との関連については両者面で大きな差を認めていない。

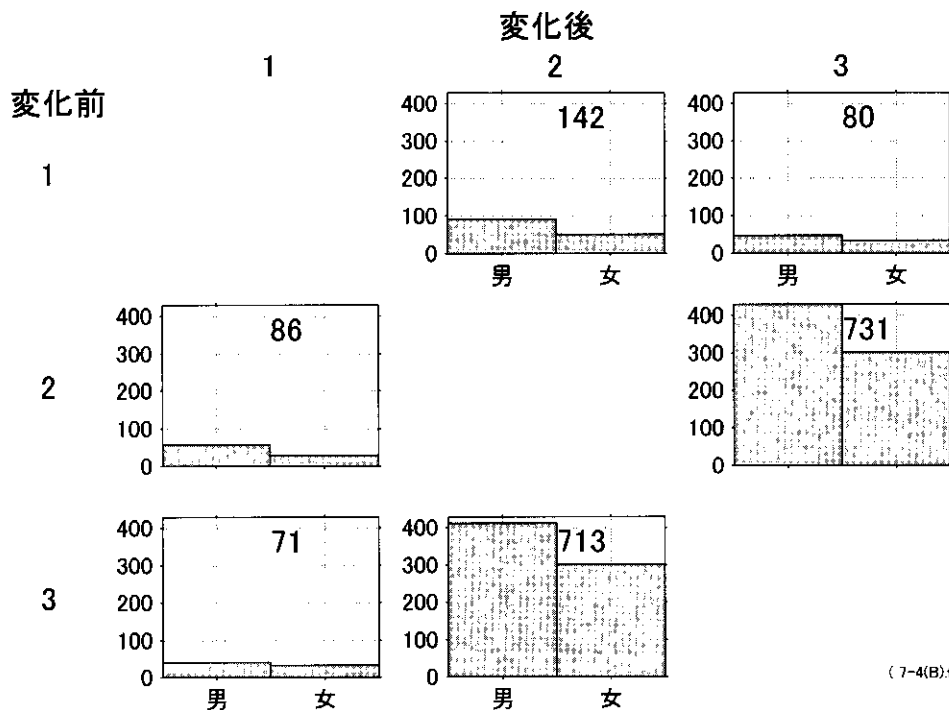
	変化後 1	2	3
変化前 1	13 名	142 回	80 回
2	86 回	167 名	731 回
3	71 回	713 回	7176 名

対象症例数 = 8581 名
 不変症例数 = 7356 名
 変化症例数 = 1225 名

改善変化回数 = 953 回
 増悪変化回数 = 870 回

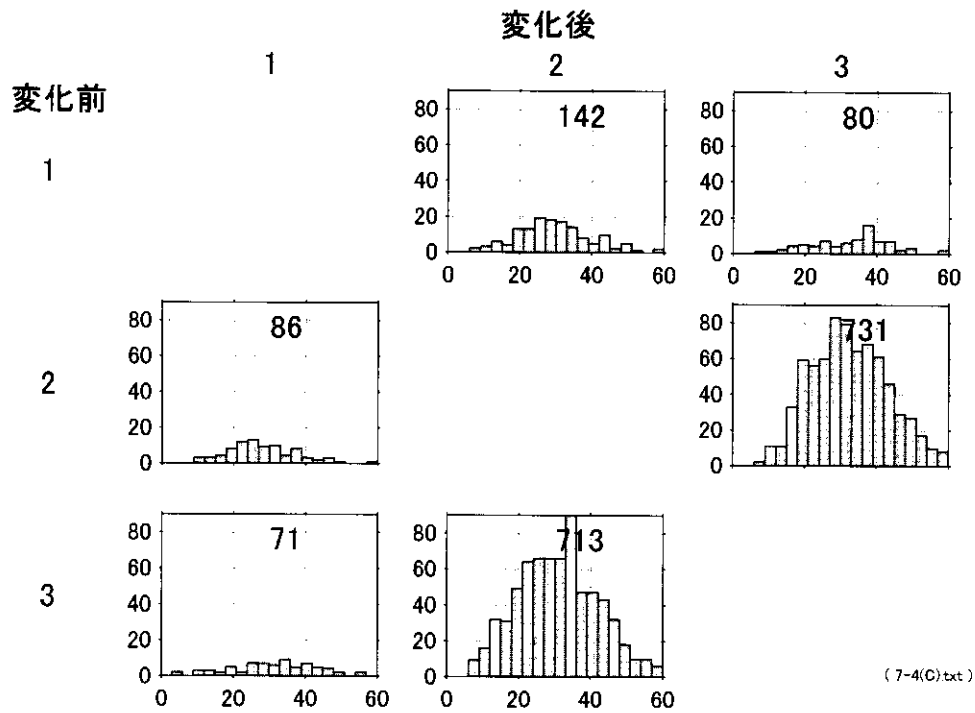
(7-4(A).txt)

図 7-4(A) ひどいいたずら：全体



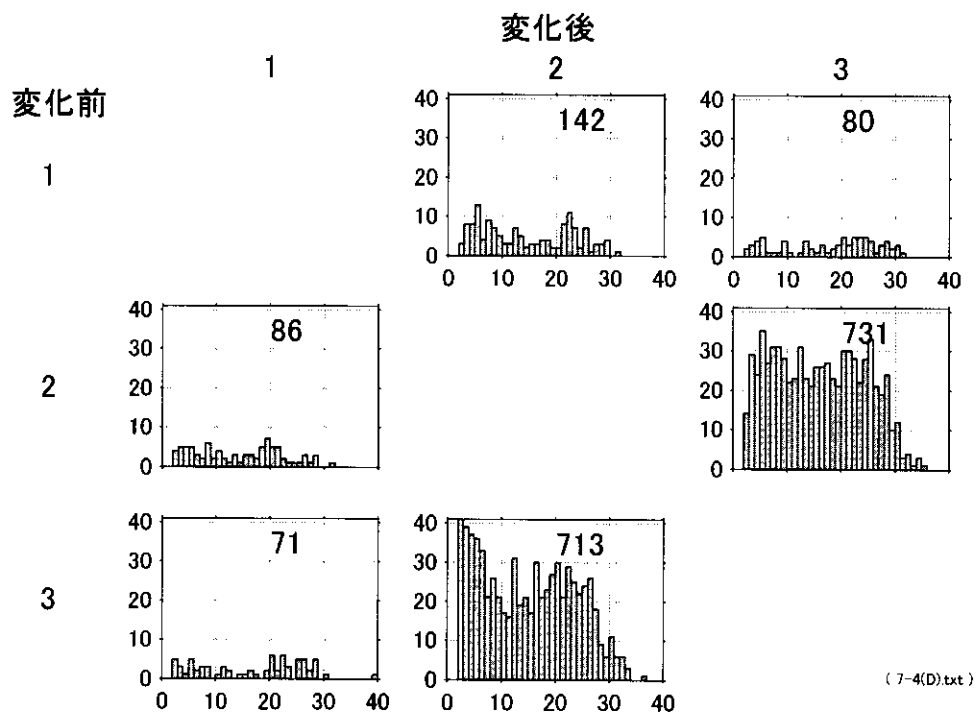
(7-4(B).txt)

図 7-4(B) ひどいいたずら：性別



(7-4(C).txt)

図7-4(C) ひどいいたずら：年齢（歳）



(7-4(D).txt)

図7-4(D) ひどいいたずら：変化発生までの入所期間（年）